

校長の自慢 『西淀川展示館』

ここは西淀川展示館です。

生徒の作品で囲まれた学校、これは私が追い求めていた学校の姿の一つです。本校では絵画、書、陶器、切り絵、など様々な作品を、美術の山本先生や書道の永喜先生が玄関・廊下・階段などに展示してくれています。有名人の作品ではなく、生徒自身の作品が展示されることに大きな意義あると考えています。生徒の作品には、西淀川高校を想う情熱があり、愛しみがありません。ですから、西淀川高校内に飾ることで、その作品は更に輝きを増します。



「一棟中廊下」の無機的な校舎にいると心が殺伐をすることがあります。そんな中、オアシスとして気持ちを潤してくれるのが、生徒の手作りの作品です。玄関には、美術展に出展したものが展示され、来客を出迎えています。階段の踊り場には、作りたての作品が彩りを醸し出しています。教室の入口には篆刻の押印が飾られています。また、廊下には

生徒の個性豊かな作品が並べられています。いいものを見る目を生徒たちは持っています。登校時に、あるいは休み時間に、生徒たちは友人や先輩の作品から出てくる何かを感じています。ふと立ち止まり、作品を見つめる生徒もいます。



「今度は私の作品を飾ってや」

「俺のを貼り出してええけど、名前なしで」

こんな声も聞こえてきます。

一度ゆっくりと、西淀川展示館をご観覧下さい。

